



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和6年 6月 24日
つばさだより 第4号

自分や友達の「タイプ」「性格」について考えてみる

6月に入りました。私たち大人は天候の急変などスピードの異なる季節の変化に驚く日々ですね。今日は小集団指導のエピソードの一つを紹介します。特別支援教室における小集団指導はだいたい人数的に3名から5名程度の集団（学年や指導の内容により多少変更することもあります。）で学習を進めています。小集団で学習をする意味は個々の課題に応じてはそれぞれありますが、実際に日々指導を進めていくと子供同士「学び合える」ということと感じます。教室の大集団とも違うこの「つばさの小集団」は学校の中でお互いのことを教室とは違った視点で共有できる時間でもあると思います。

ある日の授業は自分や友達の「タイプ」や「性格」について振り返ったり考えたりする演習内容でした。ホワイトボードに「やさしい」「おもしろい」「こまかい」「こだわる」「しんぱい」等々の性格を表す言葉カードを貼り、まず自分が思う自分の性格を選んで貼っていきます。（言葉のニュアンスや意味理解については個々の認識に差があることもあるので、必要に応じて教師が言葉の意味等を補ったりみんなで共有したりします。）その後につけ足すとすればという流れで他の小集団の仲間から言葉カードを付け足していきます。（*演習を行う前提として、言葉のニュアンスとしては否定的なものはないこと。ここまでの小集団作りのなかでこうした仲間同士のやり取りができる関係ができていることがあります。）そして、「え～?」「確かにそうかも」「自分では気が付かなかった」「そんなふうに見えるの?」等の子供たちの声が上がります。そこに加えて、違った視点での自分があることに自分自身が気付きます。このように自分の認識と他者からの認識が異なることが見えることを共有していきます。中には、自分に対しての自信があまりなく、自分の性格を否定的に解釈する子もいますが、仲間の評価の中から肯定的な言葉が出てくることもあります。主に中学年以上の演習の指導内容となりますが、自分が自分をどう感じているか。また他者からはどう見えるのか。よりよく自分や友達を知っていくためにみんなで考える学習場面です。

つばさ教室の教材紹介

・きもちのものさしシリーズ



つばさ教室ではオリジナル教材を作成し、それを個別指導や小集団指導に生かすことがあります。

本教材は、『きもちのものさしシリーズ』です。何かトラブルがあった際の気持ちについて、どのレベルにあるのかを子供自身に振り返りさせること等に使用します（「あの時はレベル5だったけど、今は2になってる」等）。振り返った上で教師は、「イライラした時はどうしたら1に戻れるかな?」「怒ってもいいけど自分のレベルを調整できるといいね」等の声掛けをします。自分の気持ちを可視化することで、「自分はこんな気持ちを抱いていたんだ」と実感することができ、そのような気持ちを抱く自分自身を認めることに繋がります。気持ちを認める事ができれば、「じゃあ次はどうしよう」と考えることができます。

この他にも、つばさ教室にはさまざまな教材があります。少しずつご紹介できればと思っています。